

法人の執行状況

平成26年度4月より、障害者総合支援法施行から一年が経過したことを機に、新たに、障害支援区分への名称・定義の改正、重度訪問介護の対象拡大、グループホームへの一元化等々の実施がなされました。法人内においても、それらの流れに則り、順次、対応してまいりました。

平成25年度は、前年度に引き続き、設備投資に力を入れた一年でありました。上半期には冷凍冷蔵庫を購入し、下半期には鹿児島西ロータリークラブからAEDを寄贈していただき、また、鹿児島市畜産連絡協議会からの環境整備事業補助金を活用し、放牧場に新たに堆肥舎を建設し、ホイルローダーの購入もさせていただきました。

また、前年度よりスタートした、サービス等利用計画（児童支援利用計画）作成についても、法人内外の障害児・者を対象に、相談支援専門員2人体制から、さらに2人増員し作成を行なっています。加えて、「鹿児島市障害者基幹相談支援センター」の運営の委託も1年が経過し、地域における相談支援体制の充実を目指し、法人として全面的にバックアップしているところです。

昨年8月には、鹿児島市の指導監査が、法人本部、ゆうかり学園、ゆうかり保育園を対象に行なわれ、様々な指摘事項（文書指摘5件、口頭指摘9件）を改善しています。今後ますますの努力を重ねていきます。

理事会・評議員会では、職場状況の改善や、事業費の推移に対応した予算の検討等を中心に審議していただきました。主な規則、規程の追加としては、5月に給与退職金規程の変更（特別手当支払月の変更）、12月にパートタイマー就業規則の変更（正規職員への変更事項の追加）を行ない、3月に経理規程の変更（新会計移行）について審議していただきました。

社会保障全般の今後が注目されるとともに、社会福祉法人の在り方の議論がはじまっている昨今ですが、当法人としての将来ビジョンを見据えるために、2月より、労働局の補助金を活用し、

「地域福祉を実現するための事業計画策定研修」（社会福祉法人ゆうかり 将来構想計画立案）を実施し、短期・中期・長期目標と、次世代につなげる計画を立案させていただきました。利用者のさらなる笑顔を増やすことを目指して、法人内の職員が思いを共有し、責任を持って働けるよう、職場環境が充実したものとなるよう、今後とも事業運営していく所存です。

平成25年度 理事会・評議員会開催状況

	開催年月日	出席者数	決議事項	欠席者
理事会	平成25年5月27日	5名	・平成24年度本部会計決算（案）について ・平成24年度社会福祉事業並びに決算について ・平成24年度本部会計その他の監事監査報告について ・定款の変更について ・就業規則・規程の変更について ・県・市指導監査について	染川
	平成25年8月10日	4名	・耐震診断業務委託について	北岡・染川
	平成25年12月14日	6名	・ゆうかり学園耐震診断について ・平成25年度補正予算について ・就業規則・規程の変更について ・平成25年度鹿児島市指導監査結果報告について	
	平成26年3月3日	5名（3名）	・グループホームスプリングラー工事指名業者選定について	稲本・北岡・染川
	平成26年3月18日	5名（4名）	・グループホームスプリングラー工事入札について	北岡・染川
	平成26年3月26日	5名	・平成25年度補正予算（案）について ・平成26年度事業計画（案）について ・平成26年度当初予算（案）について ・堆肥舎及び備品購入について ・新会計制度の移行について ・定款・規程の変更について ・管理者の定年延長について	北岡
評議員会	平成25年5月27日	11名	・平成24年度本部会計決算（案）について ・平成24年度社会福祉事業並びに決算について ・平成24年度本部会計その他の監事監査報告について ・定款の変更について ・就業規則・規程の変更について ・県・市指導監査について	染川・海江田・岡元
	平成25年12月14日	11名	・ゆうかり学園耐震診断について ・平成25年度補正予算について ・就業規則・規程の変更について ・平成25年度鹿児島市指導監査結果報告について	海江田・岡元・精松
	平成26年3月26日	12名	・平成25年度補正予算（案）について ・平成26年度事業計画（案）について ・平成26年度当初予算（案）について ・堆肥舎及び備品購入について ・新会計制度の移行について ・定款・規程の変更について ・管理者の定年延長について	北岡・長濱

平成25年度 ゆうかり学園 事業経過報告（案）

1. 事業内容

事業計画に則り、サービスの質の向上を図りつつ、ゆうかり学園としての理念『くらす』『はたらく』『ささえる』を基本に、利用者個々の可能性を見つけ支援していくことをテーマに事業運営を行った。サービス管理責任者は、多機能型施設であるために、それぞれの事業間の職員と連携を密にし、利用者の希望に応じた個別支援計画を作成した。また、職員全員が集まる会議を原則月1回開催し、情報を共有し課題解決の方策を練った。

2. 利用状況（単位：名）※8月に入所定員、7月に多機能型定員を下記の通り変更する。

【定員】施設入所支援：60名 生活介護：75名 自立訓練：10名 就労移行支援：10名
就労継続支援A型：10名 就労継続支援B型：45名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入所支援	62.2	58.7	63.6	59.2	52.3	59.2	58.1	58.8	54.2	53.0	59.4	57.8	58.0
生活介護	50.0	49.9	51.1	69.5	60.0	69.8	68.2	69.0	64.4	66.5	68.5	67.2	62.8
自立訓練	22.0	20.9	22.7	5.7	5.2	5.6	5.6	5.5	5.5	5.8	5.4	5.9	9.6
就労移行	17.5	17.1	18.1	7.6	7.3	6.9	7.3	8.0	7.8	7.8	7.7	7.7	10.0
就労A型	5.5	5.7	5.4	5.7	5.3	5.6	5.6	5.7	5.5	5.5	5.6	5.4	5.5
就労B型	23.6	22.7	22.6	32.9	26.8	30.0	30.3	31.7	30.4	31.5	30.1	30.5	28.6
日中合計	118.6	116.3	119.9	121.3	104.6	117.7	116.9	119.9	113.5	117.1	117.2	116.6	116.6

上記、表は平均利用者数を表示してある。さて、各事業における利用者の現員数の推移であるが、施設入所支援については、期首65名、期末60名と5名減となった（地域移行によりGH・家庭へと）。生活介護については、期首56名、期末72名と16名増となった。自立訓練については、期首23名、期末6名と17名減となった。就労移行支援については、期首18名、期末8名と10名減となった。就労継続支援A型については、年間6名と増減は見られなかった。就労継続支援B型については、期首27名、期末35名と8名増となった。今年度は7月に、平成23年の事業定員見直しから2年が経過したため、再度事業見直しを行った。年々ますます高齢化・重度化が進む中、利用者一人ひとりの支援方法について検討を重ねているところである。課題は散見されるが、解決出来るよう今後とも事業運営していく所存である。

【新規利用者】：養護学校卒3名（4月より利用開始。） 家庭等2名 他事業所1名

【退所利用者】：他事業所4名 長期入院2名（サービス利用休止中。）

平成25年度 蔬菜部活動報告

【目標】

誰もが安心して食べられる野菜作りを通じて、四季を感じながら季節の野菜を作り、それを販売することにより生産活動へ結びつけていく。またそれぞれが畑まで一般道を歩くことにより、危険回避やマナーを習得することにより社会性を身につけていく。

【主な活動内容】

蔬菜部の活動の内容としてキャベツ、チンゲン菜、深ねぎ、玉ねぎなどの野菜作りを主体にブルーベリー、はやと三つ葉つじの栽培も行っている。

野菜作りを細かく分析すると、最初畑の準備として堆肥撒きして耕し、野菜の種を直接蒔くか、苗で植えつける。苗を植えつける時は箱に種まきをして、鉢上げして、苗を育てて畑に植え付ける。その後草取りや、追肥土寄せ、病害虫対策を行い、野菜が出来ていく。出来た野菜は富士産業、ゆうかり保育園への出荷や、職員、無人販売が主になり、利用者と一緒に調整して出荷していく。

【活動内容及び支援内容】

活動項目	就労移行支援	就労継続支援A・B	自立訓練	生活介護
キャベツ チンゲン 菜 ブロッコ リー等	苗作りでの鉢上げから、植え付け活動、収穫後の野菜の調整（通常は実習が主体となっている。）	畑準備として一輪車への堆肥積み込み、苗作りでは鉢への土入れ、植え付け後の灌水。畑では野菜の間の、収穫後の野菜の調整をする。	畑の準備では堆肥撒きで一輪車押しや堆肥も積み込み、苗作りでは土入れや苗の運搬。野菜作りでは畑周りや野菜の間の草取り、収穫では野菜運び等。	畑の準備では堆肥撒きで一輪車押し、また通路等で草取りの練習、収穫では野菜運びを手伝う時もある。畑の移動で健康維持、危険回避の訓練。
大根 トウモロ コシ	畑の準備で堆肥撒きを行い、種まきで指示された個数の種を蒔く。土寄せや除草等も行う。	畑準備として一輪車への堆肥積み込み、種の数の分かる人は種まきをして、草取り、土寄せ等を行う。	畑の準備では堆肥撒きで一輪車押しや堆肥も積み込み、苗作りでは土入れや苗の運搬。野菜作りでは畑周りや野菜の間の草取り等。	畑の準備では堆肥撒きで一輪車押し、また通路等で草取りの練習、収穫では野菜運びを手伝う時もある。畑の移動で健康維持、危険回避の訓練。
ブルー ベリー	施肥や収穫などの管理。	草取り、敷き草などの管理。	草取り、敷き草、収穫時、箱を持つ。	

【活動反省】

季節の野菜づくりは順調に進められた。今後は品目を「絞るか、季節野菜作りを充実させる」、いずれかを検討してみたが、季節野菜の消費が多くすべてを止めるわけにはいかないので計画的に生産した。また加工に必要な野菜生産は順調だった。

平成25年度 花卉・果樹部 活動報告

【目標】

- ① 園内美化に勤め利用者の情緒安定に努める。
- ② 四季あふれる果物や野菜を作り、収穫の喜びを感じてもらう。
- ③ 地域との交流を図り農産物の技術向上・販売経路を確立し生産性を高め安定させる。

【主な活動内容】

活 動 種 目	内 容
ハウス管理 野菜、花苗作り 野菜(年間 20 種類以上) トマト・なす・里芋など	土づくり・ビニール鉢などへの土入れ 灌 水 植え付け 除草
果樹園管理 みかん・ブルーベリー・梅・栗・金柑	剪定・除草 施肥・中耕・堆肥散布・葉散・収穫
花壇管理(ゴルフ場・やまびこ) お茶管理 椎茸管理	除草・花の植え付け 除草・施肥・お茶摘み 収穫・コマ打ち

【活動内容及び支援内容】

活動項目	就労移行支援	就労継続支援 A・B	自立訓練	生活介護
ハウス管理 花・野菜の苗作り 鉢花作り 花壇の植付け等	土作り、鉢上げなど職員からの指示を受け丁寧な仕事を心がける。花の植え付けに関しては、品種の特性を知ること。	ハウスの開閉、灌水、鉢上げなどを基本にできる様にして行く。	土入れ(ビニール鉢)、苗の移動、灌水が主な活動になる。	土入れ(ビニール鉢)、苗の移動、灌水が主な活動になる。
果樹園管理 温州みかん・梅・ブルーベリー・金柑などの栽培	みかん収穫では、鉢で傷を付けないように丁寧に収穫する。農機具を使用するときは安全に使えるようにする。	収穫は、果実を傷めないように収穫する。農機具を使用するときには安全に使えるようにする。	除草、収穫が主な活動になる。また、剪定くず運び。	除草、収穫が主な活動になる。また、剪定くず運び。
花壇管理 (ゴルフ場)	除草、花の植え付けが主な仕事となる。植え付けでは丁寧に植えつける。クワを使えるようにする。	除草、花の植え付けが主な仕事となる。植え付けでは丁寧に植えつける。クワを使えるようにする。	苗の移動や除草が主な活動になる。	苗の移動や除草が主な活動になる。
椎茸・お茶管理	原木の持ち運び、駒打ち、収穫などが主な作業になる。お茶の刈り込みでは、機械を使用する。	原木の持ち運び、駒打ち、収穫が主な活動となる。お茶の刈り込みでは、機械を使用する。	原木の持ち運びや収穫時のキャリー持ちなどが主な活動。お茶管理は除草をする。	原木の持ち運びや収穫時のキャリー持ちなどが主な活動。お茶管理は除草をする。

【活動反省】

時期による管理は計画通り進められた。しかし職員が勤務状況により少ないことが見られ時間を要することが多かった。

生産量は予定量の見込み通り確保できたが、毎年目標である販路先の開拓が出来ずに学園消費(おやつ・ジュース)が中心であった。生食販売は一部だけで行い(無人販売等)加工品づくり(ジュース・ジャム)を進めたが販売量は増やすまでにはいかなかった。今後も無駄をなくして良い製品作りに取り組んでいく。

また、2年目を迎えるイタリアントマトの栽培に関しては、安定した収穫量が確保できた。総収穫量は739kg(在来種661, 7kg レッドマジック77, 5kg) 内ピュレ2420。出荷先は、梅北さん・城山・イケダパン・ダイソー・山形屋等であった。イタリアナポリ市との姉妹盟約55周年(H27年)を迎えるまでの加工品作りを目指していく。

平成25年度 畜産部 活動報告

【目標】

- ①朝礼、終礼、休憩、身だしなみ等のメリハリをつけ取組むようにする。
- ②単調になりやすい活動ではあるが、活動に参加する事 자체가家畜の飼育に繋がっているという事や、生産した物を喜んで購入して頂ける事を、実感してもらえそうな働きかけをする。
- ③怪我などがないように利用者の方の体調確認を行ない、健康状態のチェックは常に心掛ける。衛生的に楽しく喜んで参加出来るような環境作りに務める。

【活動内容及び支援内容】

活動項目	就労継続支援A	就労移行支援	就労継続支援B	自立訓練	生活介護
給餌	食い込みの観察を行なう。	各部屋で決められた種類や杯数を確認し給餌する。	各部屋で決められた種類や杯数を確認し給餌する。	給餌の補助として残飯等の運搬をする。	給餌漏れ等を掃き集め餌箱に入れる。
畜舎清掃	掃除を行なう箇所・場所の指示、各部屋の掃除を他の方と一緒にこなす。	各部屋に分かれ掃除を行なう。のこ屑を適量に撒く。	各部屋に分かれ掃除を行なう。	清掃の補助として取り上げた汚物の運搬をする。	清掃の補助として通路や畜舎周辺の掃き掃除を行なう。
サイレージ 取り上げ	サイレージ状態を確認し、分量通り準備する。	サイレージ状態(腐敗等)を確認しながらキャリアに取り上げる。	キャリアに取り上げる。取り上げたサイレージを各部屋まで運搬する。	取り上げたサイレージを各部屋まで運搬する。	サイレージを取り上げる方へキャリアを手渡す。
家畜の 状態確認	発情や分娩の予定を確認をして、状態を見ながら職員への連絡をする。	発情や分娩の確認をして、異常を見つけた時には職員へ連絡する。	発情や分娩の確認をして、異常を見つけた時には職員へ連絡する。	分娩時等見守りを行なう。	分娩時等見守りを行なう。
交配	交配に際しての必要な補助をする。	交配に際しての必要な補助をする。	交配に際しての必要な補助をする。		
牛の手入 (ブラシが け)	ブラシをかける準備を行なう。	ブラシをかける準備を行なう。	家畜の様子を観察しながら適宜手入れ等を行う。	牛のブラシ掛けなどをする。	牛のブラシ掛けなどをする。
パン処理	豚給餌用のパンの袋明けの決められた分量を指示する。	豚給餌用のパンを決められた分量だけ運搬・準備する。	豚給餌用のパンを決められた分量だけ運搬・準備する。	豚給餌用のパンの袋明けを行なう。	パンの袋を集めゴミ袋に入れる。

【活動反省】

- 豚 … ぼおくしよつぶにて、食肉や餃子販売など需要も伸びているので、よりいっそう肉豚の肉質にこだわり上質の肉をつくり、スムーズな肉豚出荷が出来るようにしたい。そのためにも効率的な交配を行ない、毎日の家畜の発情・健康状態などのチェックをしっかりと行なった。
- 牛 … 親牛の種付がしっかりと出来るよう発情・健康状態など家畜のチェックを常に心掛けた。コスト削減にも務め生産力アップにつなげる。また競りに出した時に高値がつくように、子牛の状態のチェック・餌の給付方法など工夫に取り組んだ。しかし3月下旬に牛に原因不明の病気が発症し仔牛5頭、親牛2頭が亡くなった。すぐさま家畜保健所(県市)掛かり付けの獣医師と連携を取り、獣医師のワクチン接種と学園全体で消毒に全力を注いだ。その後は発症もなく落ち着いている。今後も気を緩めず消毒、家畜保健所(獣医師等)と連携を密にして対処したい。

最後に、鹿児島市畜産連絡協議会より環境整備事業補助金をいただき、新堆肥舎を放牧場に設置し、更にホイルローダ1台も購入している。

平成25年度 木工部 活動報告

【目標】

木工品は幾つもの工程を経て完成する物が多いので、活動部の利用者がひとつでも工程に携われるように支援し、製品が購入され利用してもらえる喜びを持てるようにする。

また、外部の商品等を参考にして新商品の開発も検討していき、売れる商品作りを推進する。

【活動内容】

- ・ぐい呑み製作(内側研磨・外側研磨・穴あけ・針金かけ・塗装)
- ・箸置き作り(材料切り・型作り・研磨・ブラシかけ・塗装・穴あけ)
- ・つま楊枝作り(材料切り・組み立て・型作り・ブラシかけ・底つけ・塗装)
- ・コースター作り(材料切り・研磨・針金かけ・塗装)
- ・ペン立て作り(材料切り・針金かけ・塗装・組み立て)
- ・ボール作り【年度末】型作り・研磨・塗装・箱詰め)

【活動内容及び支援内容】

活動内容	就労移行支援	就労継続支援A・B	自立訓練	生活介護
ぐい呑み	内側研磨を行なう	外側研磨・穴あけ	針金かけ・塗装	塗装補助・納品準備・研磨
箸置き	材料の裁断・作業全般に携わる	ミシン鋸で型に切る 型作り・研磨	塗装	塗装補助・納品準備・研磨
ようじ立て	型に合わせた裁断を行なう・作業全般に携わる	接着剤を利用して組み立てる・底つけ・型作り	ブラシ掛け・塗装	塗装補助・納品準備・研磨
コースター	材料の裁断・作業全般に携わる	ミシン鋸で型に切る 型作り・研磨	塗装・針金掛け	塗装補助・納品準備・研磨
ペン立て	材料の裁断・作業全般に携わる	ミシン鋸で型に切る・研磨	針金掛け・塗装・組み立て	塗装補助・納品準備・研磨

【活動反省】

常時、納品先の必要とする品のストックを保持し、いつでも要請に答えられる体制を計画してきた。また、バザー等でも新商品を導入することで客の購入意欲がわくように取り組んだ。利用者の方が多く参加できる商品づくりを計画したい。

来年度は、ラグビーボウル サッカーボウルを鹿児島県森林振興大会に展示し地域に普及していきたい。

平成25年度 竹工部 活動報告

【目標】

作成工程には、1番工程から4番工程、編み方、笹落としがあり、利用者一人一人の能力に合った活動を行い、みんなで協力しながら活動を進める事が出来た。

10月くらいから材料確保が難しく、注文に追われることもあったが、現在は材料確保も出来ストックも出来きて安定した販売ができています。

竹工部は様々な事業を利用されている方が所属しており、支援の必要な利用者もおり活動だけでなくほうき作り以外の活動も充実させていきたい。

【主な活動内容】

- ・竹笹取り（園外活動）
- ・ほうきの柄取り（園外活動）
- ・柄の油抜き
- ・柄伸ばし
- ・笹落とし
- ・ほうき作り・・・1～4番工程 編み方工程
- ・枝切り、選別作業（1番材料）

【活動内容及び支援内容】

活動内容	就労移行支援	就労継続支援A・B	自立訓練	生活介護
竹笹取り	職員が竹から落とした笹を集めて適量を紐で結ぶ	職員が竹から落とした笹を集めて適量を紐で結ぶ	職員が竹から落とした笹の根元を揃えて集める	職員が竹から落とした笹の根元を揃えて集める
ほうきの柄取り	山から切り出した柄に使う竹を運ぶ	山から切り出した柄に使う竹を運ぶ	山から切り出した柄に使う竹を運ぶ	山から切り出した柄に使う竹を運ぶ
柄の油抜き	火で炙った竹から出た竹の油をぼろ布で拭き取る（一連の活動が出来る）	火で炙った竹から出た竹の油をぼろ布で拭き取る（一連の活動が出来る）	職員が火で炙った竹から出た竹の油をぼろ布で拭き取る	拭き取りの出来ない方は出来上がった竹を袋積みする
笹落とし			笹の葉だけを取って小さな枝は残す	笹の葉だけを取って小さな枝は残す
ほうき作り	1番～4番工程及び編み方工程を中心に活動する 必要に応じて使用する針金巻きも行なう	1番～4番工程及び編み方工程を中心に活動する 必要に応じて使用する針金巻きも行なう	3番～4番工程作りを中心に製作する 1番に使用する材料の選別作業を行なう	1番材料の枝切り及び選別作業をする

平成25年度 紙工部 活動報告

【目標】

外部受注のため、期日に遅れないように皆で協力して納品していく。また、高齢化に伴い生産能力が低下しているため新たな活動を開拓していくとともに、働くことに対する「喜び」を感じることができるような活動を提供していく。

【主な活動内容】

	活動内容
外部受注	箱折り(寿屋) めぐい(ジョイフル) スプラウトシール貼り(久保水耕園)
美化活動	園外のゴミ拾い
その他	封筒裏返し 月ごとのカレンダー作成 手芸 体力作り(ボール運動等)

【活動内容及び支援内容】

活動内容	生活介護・自立訓練	就労移行・就労継続B
外部受注	箱折り(フタ閉じ・紐外し) めぐい(材料渡し・釘補充・仮止め・テープ巻き・釘通し) スプラウトシール貼り	箱(身、フタ折り・紐外し) めぐい(PPバンド切り・テープ巻き・釘通し) スプラウトシール貼り
	年齢、体力的なものを考慮しつつ、就労移行・就労継続Bの方々と協力しながら、作成していく。	納品時期に遅れないように作成していく。不良品が出ないように確認しながら、その都度支援していく。
美化活動	学園付近の地域をまわり、体力作りを兼ねてゴミ拾いをする。	学園付近の地域をまわり、体力作りを兼ねてゴミ拾いをする。
	ゴミ拾いをしながら地域の方々とのコミュニケーション(挨拶)がとれるようにする。	ゴミ拾いをしながら地域の方々とのコミュニケーション(挨拶)がとれるようにする。
その他	封筒裏返し 月ごとのカレンダー作成 手芸 体力作り(ボール運動等)	封筒裏返し 月ごとのカレンダー作成 手芸 体力作り(ボール運動等)
	一人ひとりに合わせた活動に参加してもらう。	一人ひとりに合わせた活動に参加してもらう。

【活動反省】

納期に遅れること無く安定して箱・めぐいを出荷できた。また、高齢化に伴い新たな活動を開拓したが、進展が見られなかった。年齢に応じた活動内容を提供できるようにしていきたい。

平成25年度 そうさく部活動報告

【目標】

個々に応じた支援内容を組んでいく事で、利用者が落ち着いて活動に参加でき・潜在能力などを引き出せていけるような環境作りをしていく。生産を求める活動ではなく、利用者がいかに楽しく・ゆとりを持って活動に参加できるかという事を、念頭において支援計画を立てて取り組み、最終的には活動場が一番楽しい所だと思われるようにしていきたい。

【主な活動内容】

	活動内容
生産活動	リサイクル活動(空き缶回収・分別・プレス) 餃子生産用の玉ねぎの皮むき
美化活動	食堂清掃・除菌(昼食後) 寮周辺清掃(トイレ・庭・側溝など) 神社清掃 他
創作活動	季節の行事に対する道具類作り (カレンダー・誕生会カード・ひな祭り・節分・鯉のぼり作り 他) 創作活動 (木工製品研磨・絵画・貼り絵 他) レクリエーションに参加する
屋外活動・リハビリ	機能維持(リハビリ)を目的に行なう 歩行・園外歩行・ロープ遊び・レクリエーション 他

【活動内容及び支援内容】

活動内容	自立訓練	生活介護
空き缶回収 分別・プレス	・あさひが丘学園や旭福祉センターへ歩行を兼ねて空き缶回収に行く (地域との交流、交通ルール) ・空き缶やペットボトルの分類をする (間違いがないように確認) ・ラベル剥ぎやプレスを行う	・あさひが丘学園・旭福祉センターへ歩行を兼ねて空き缶回収に行く (地域との交流、交通ルール) ・ラベル剥ぎやプレスを行う
玉ねぎの皮むき パンの袋開け	爪を立てないように皮むきをする (皮を剥きやすいように包丁を入れる) パンを小さくちぎる (袋から出しちぎりやすいようにする)	爪を立てないように皮むきをしたり、皮の片づけをする (皮を剥きやすいように包丁を入れる) パンを小さくちぎる 空き袋の回収をする (袋から出しちぎりやすいようにする)
美化活動	・清掃することで活動場所をきれいに保つ意識を持たせる	・支援員の指示に従い清掃する意識を持つように促す
創作活動	・創作活動に参加することで好きな事を見いだせるようにする。	・創作活動に参加することで楽しみを持てるようにする
屋外活動・リハビリ	・歩行をしながら体力作りと残存機能を維持する (地域との交流、交通ルール) ・レクリエーションなど	・歩行をしながら体力作りと残存機能を維持する (地域との交流、交通ルール) ・レクリエーションなど

【活動反省】

空き缶回収や歩行を通して、四季を感じながら地域との交流をし、歩行をする事でリハビリや残存機能も維持にもつなげる。また、週1回ではあるがあさひが丘や旭福祉センター、近所の契約している自動販売機に空き缶回収に行く事を利用者は楽しみにしていた。

空き缶の分類が出来る方は自立支援の方2名のみで、生活介護の方々もペットボトルのラベル剥ぎやつぶしなどに参加をするが、認知症や異食にかかわる病気を持っている方が増えてきており、参加できる人数が限られてきている現状もあるため、参加出来る人数で一週間追われるような無理がない計画で取り組んだが、職員勤務の関係で計画を先延ばしする事もあった。

餃子に使用する玉葱の皮むきや豚の餌になるパンちぎり・食堂や園内外の掃除などに参加する事で何かの役に立っているだということ、喜んでもらえている嬉しさを習得してもらった。

微々たる収益ではあるが、得る事が多い活動を行ない充実させて行くことを今後も続けて行きたい。

平成25年度 ぽおくしよっぷ遊花里 事業経過報告

1. 事業内容

黒豚餃子：今年度から2名のスタッフ総員で格段に餃子成型のスピードが上がり、他の方達にも刺激となった。ラーメン店への売上も豚とろらめんの博多2店舗（ラーメンスタジアム・博多駅デイトス）・始良店が、安定して売上を伸ばした。

店頭販売：餃子・精肉の評判が口コミで広がり、固定客も増えた。園芸部生産の新鮮野菜の販売を店頭ですることにより、商品売上にも繋がっている。

出張販売：野菜販売をお願いしてある世話人の方のお店で繁忙期ではない火曜日のみ出張販売を実施している。町内会でも大通りを隔てるとなかなか出向かないしよっぷの商品を知ってもらえる機会が増え、足を運んでくださる機会が増えた。今後も、引き続き『顔馴染みの店』となれるよう、丁寧な接客を心がけたい。

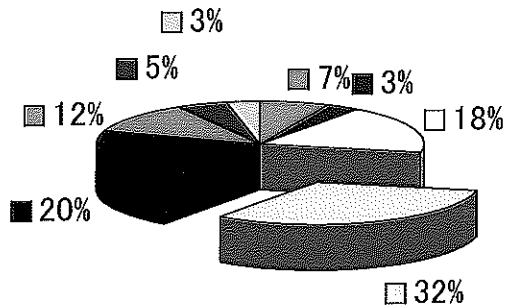
お中元・お歳暮：今年度のお歳暮では、牛肉を精肉で加え販売し、売上を上げることが出来た。次年度は、牛肉の供給が見込めず、豚肉のみの販売となるが、豚肉の確保を確実にしていくためにも、畜産部と連携を密にする必要がある。

ゆうかり学園(GH・CH等含む) 利用者年齢別構成表

平成26年 3月31日現在

		～20歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳～	合計
入所	男性		4	1	7	11	8	2	2	1	36
	女性			1	4	8	4	5	1	1	24
小計		0	4	2	11	19	12	7	3	2	60
GH CH	男性	2		4	4	8	17	4			39
	女性		2	3	6	6	6				23
小計		2	2	7	10	14	23	4	0	0	62
通所	男性		3	6	1			1			11
	女性	1	2	1			1				5
小計		1	5	7	1	0	1	1	0	0	16
合計		3	11	16	22	33	36	12	3	2	138

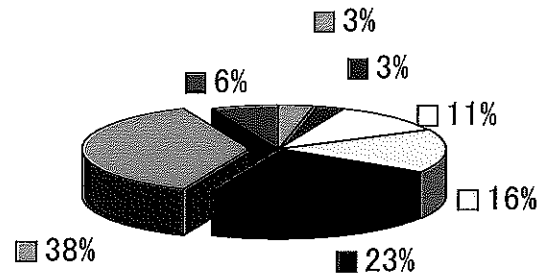
年齢別構成グラフ【入所】



20～29歳 30～39歳 40～49歳 50～59歳
 60～69歳 70～74歳 75～79歳 80歳～

平均年齢: 56.0歳 平均程度区分: 4.5

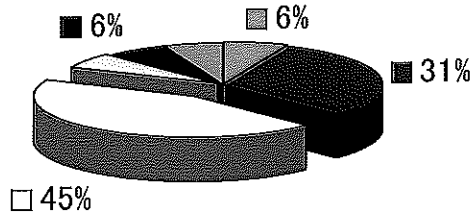
年齢別構成グラフ【GH・CH】



20～29歳 30～39歳 40～49歳
 50～59歳 60～69歳 70～74歳

平均年齢: 53.4歳 平均程度区分: 1.8

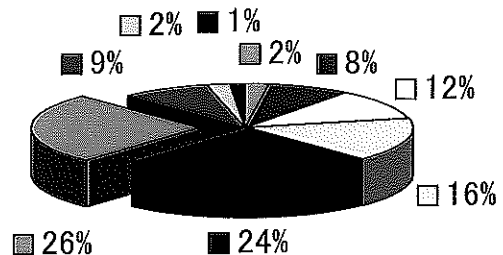
年齢別構成グラフ【通所】



20～29歳 30～39歳 40～49歳 50～59歳

平均年齢: 34.6歳 平均程度区分: 3.6

年齢別構成グラフ【全体】



20～29歳 30～39歳 40～49歳 50～59歳
 60～69歳 70～74歳 75～79歳 80歳～

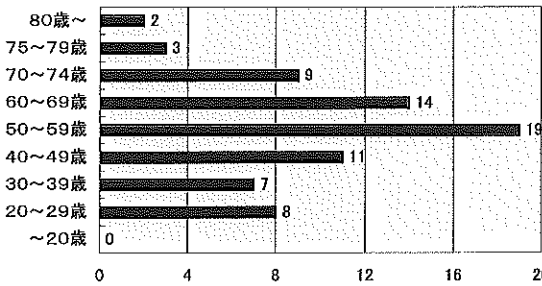
平均年齢: 52.3歳 平均程度区分: 3.2

ゆうかり学園(事業別) 利用者年齢別構成表

平成26年 3月31日現在

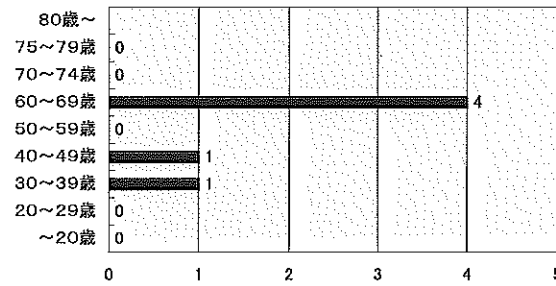
		～20歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳～	合計
生活介護	男性		6	5	8	12	9	4	2	1	47
	女性		2	2	3	7	5	5	1	1	26
小計		0	8	7	11	19	14	9	3	2	73
自立訓練	男性			1							1
	女性				1		4				5
小計		0	0	1	1	0	4	0	0	0	6
就労移行支援	男性	1				2	2				5
	女性			1		2					3
小計		1	0	1	0	4	2	0	0	0	8
就労継続A型	男性	1		1		1					3
	女性	1				2					3
小計		2	0	1	0	3	0	0	0	0	6
就労継続B型	男性		1	3	3	3	13	3			26
	女性			2	4	2	2				10
小計		0	1	5	7	5	15	3	0	0	36
合計		3	9	15	19	31	35	12	3	2	129

年齢別構成グラフ【生活介護】



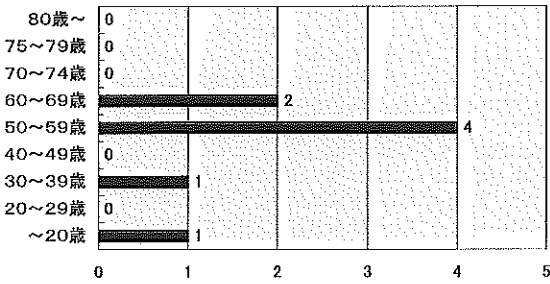
平均年齢:53.8歳 平均程度区分:4.5

年齢別構成グラフ【自立訓練】



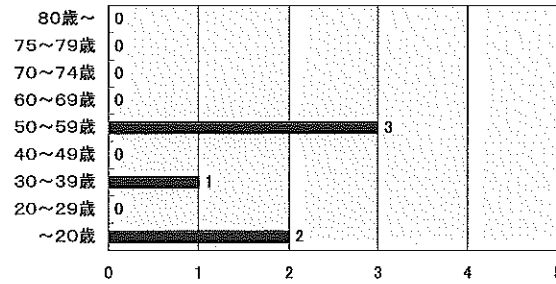
平均年齢:37.5歳 平均程度区分:4.0

年齢別構成グラフ【就労移行支援】



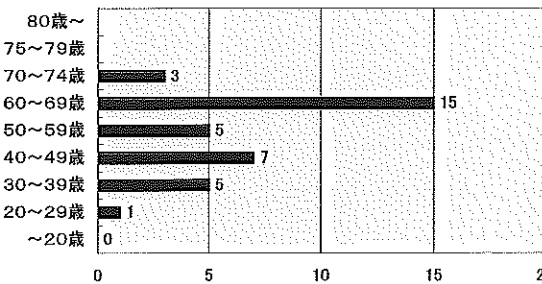
平均年齢:50.0歳 平均程度区分:1.5

年齢別構成グラフ【就労継続支援A型】



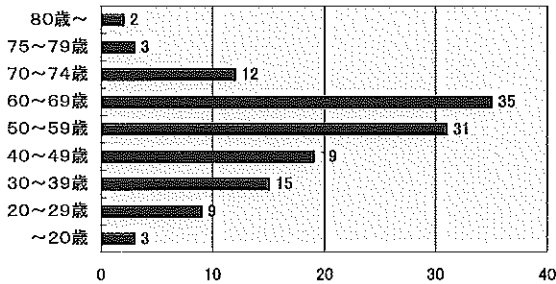
平均年齢:39.0歳 平均程度区分:0.7

年齢別構成グラフ【就労継続支援B型】



平均年齢:53.9歳 平均程度区分:1.8

年齢別構成グラフ【全体】



平均年齢:53.1歳 平均程度区分:3.3

平成 25 年度 グループホーム・ケアホームゆうかり 事業経過報告（案）

【グループホーム・ケアホーム】：計 13 箇所 定員 64 名

「わかたけ荘」「第二わかたけ荘」「まるおか」「すずらん荘」「ひまわり」「さくら荘」
「わかば」「きんもくせい」「びおら」「あじさい」「コスモス」「さざんか」「あおい」

1. 事業内容

ゆうかり学園事業計画に則り、サービスの質の向上を図りつつ、利用者個々の生活を支えることをテーマに事業を運営した。就労している方、他事業所のサービスを利用している方については、勤務先・通所先との連携を密にとり、就労移行支援事業とも関連付けてバックアップすることに努めた。サービス管理責任者を 2 名配置し、各ホームに配置されている世話人、担当職員と連携を取り、利用者個々の生活をより良くするため、地域で暮らすことを支えるために、個別支援計画を作成した。また、世話人並びに担当職員が参加する会議を月 1 回開催し、課題解決への方策を練った。

2. 利用状況（単位：名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
共同 生活 介護	19.3	19.1	20.0	23.4	20.9	23.0	23.0	22.2	21.2	20.3	22.0	21.9	21.4
共同 生活 援助	36.7	35.6	37.0	37.0	34.2	34.8	35.6	36.6	34.7	35.7	37.8	38.0	36.1
計	56.0	54.7	57.0	60.3	55.1	57.8	58.6	58.8	55.9	56.0	59.8	59.9	57.5

定員 59 名のところ、7 月より新たに「あおい」（定員 5 名）を開設し、64 名定員として事業運営を行った。利用者数の推移としては、年度途中で 2 名の方が退居し、2 名の方が長期入院中のため、利用されていない状況である。また、新たに利用を開始された方は、4 月に 2 名、7 月に 4 名、9 月に 1 名、12 月に 1 名であった。

3. その他

消防法の変更により、グループホーム・ケアホームにもスプリンクラーが義務付けられることになった（支援区分の重たい方が入居されているホームの場合は設置が義務付けられた）。そのため、1 月に指名工事入札を行い、3 月末より、スプリンクラー設備工事を始め、26 年度 5 月現在でも工事を行っている最中である。設備面以外でも、ケアホームの廃止に伴うグループホームの一元化と、法制度の改変に伴い、新たな課題も見受けられている。

平成 25 年度 サービスセンター「くればす」事業経過報告（案）

1.

ホームヘルプサービス 担当職員：塩満、内、田中（友）、川畑、鳥丸、〔吉永、田島、松田〕

鹿児島市在住の障害児（者）の在宅生活の支援を目的に居宅介護、重度訪問介護、行動援護、移動支援、同行援護を実施してきた。
なお、詳細については下記の表の通りである。

平成25年度サービスセンター「くればす」活動実績

月	総件数	総利用時間	移動支援		行動援護		同行援護		身体介護		重度訪問介護		送迎	
			件数	時間	件数	時間	件数	時間	件数	時間	件数	時間	件数	時間
4	125	404:30	52	81:30	52	172:30	4	7:00	74	143:30	0	0:00	0	0:00
5	120	327:00	42	52:00	39	120:00	3	5:00	74	150:00	0	0:00	0	0:00
6	123	324:30	42	49:00	46	138:00	6	7:00	67	130:30	0	0:00	0	0:00
7	142	406:00	57	74:00	52	163:30	6	10:30	78	158:00	0	0:00	0	0:00
8	129	425:30	47	67:30	54	190:30	7	8:30	76	159:00	0	0:00	0	0:00
9	114	321:30	46	52:00	43	138:00	5	7:00	66	124:30	0	0:00	0	0:00
10	131	363:30	57	74:30	47	148:00	10	10:30	69	130:30	0	0:00	0	0:00
11	126	321:30	71	114:30	46	132:30	3	13:00	41	61:30	0	0:00	0	0:00
12	108	322:40	49	91:00	50	155:30	5	15:30	17	25:30	1	8:00	84	27:10
1	112	322:45	48	87:00	55	169:00	3	11:30	19	28:00	0	0:00	88	27:15
2	108	322:00	45	90:00	54	163:00	6	20:30	15	21:30	0	0:00	86	27:00
3	130	415:55	45	99:15	66	218:45	11	37:45	11	25:30	0	0:00	104	34:40
合計	1468	4277:20	601	932:15	604	1909:15	69	153:45	607	1158:00	1	8:00	362	116:05
平均	122.333	356:26	50.1	77:41	50.3	159:06	5.8	12:48	50.6	96:30	0.1	0:40	30.2	9:40

※ 利用件数の平均値は、少数点以下第2位を切り捨てしている。

平成25年度 サービスセンター「くればす」事業経過報告（案）

2. 指定一般・特定・児童相談支援事業 担当職員：沖崎、塩満「田中（武）、鳥丸」その他、協力職員の皆様
 鹿児島市在住の障害児（者）および保護者等からの相談支援、電話相談、訪問相談、関係機関との連携などを行ってきた。今年度は計画作成が主で、電話相談、訪問相談、同行相談、来所による相談等を実施している。内容としては計画作成依頼、福祉サービスの利用についての相談、本人の不安の解消、情緒安定に関する支援が多かった。

H25年4月～H26年3月までの計画相談の実績集計及び現状と課題については下記の表の通りである。

指定特定相談支援・児童相談支援 実績集計（平成25年4月～平成26年3月）

		H25.4	H25.5	H25.6	H25.7	H25.8	H25.9	H25.10	H25.11	H25.12	H26.1	H26.2	H26.3	件数
全体	サ等計画	8	13	11	45	6	13	5	8	6	10	14	8	147
	サ計・モニ	9	12	18	11	19	20	18	17	22	18	21	26	211
	児支計画	1	3	2	2	0	1	0	1	3	2	1	5	21
	児計・モニ	5	6	5	2	2	2	2	1	3	1	3	5	37
全総件数														416
法人 （入所 GH・CH 通所 くればす スケッチ）	サ等計画	7	6	5	43	0	7	3	3	1	3	6	5	89
	サ計・モニ	5	7	12	6	13	15	8	5	13	8	13	18	123
	児支計画	0	2	0	2	0	1	0	1	2	1	0	2	11
	児計・モニ	1	3	2	0	0	2	2	1	2	0	1	0	14
総件数														237
法人以外	サ等計画	1	7	6	2	6	6	2	5	5	7	8	3	58
	サ計・モニ	4	5	6	5	6	5	10	12	9	10	8	8	88
	児支計画	1	1	2	0	0	0	0	0	1	1	1	3	10
	児計・モニ	4	3	3	2	2	0	0	0	1	1	2	5	23
総件数														179

指定特定相談支援・児童相談支援 利用者集計（平成25年4月～平成26年3月）						
法人	計画相談	108	人	法人以外	計画相談	56
	児童相談	16	人		児童相談	14
	合計	124	人	合計		70
※総利用者数(H25.4～H26.3)						
全体	計画相談	164	人	※初回の計画請求まで至った利用者の総数。 (その他、計画作成予定者等は含んでいない。 新年度に入り、相談が終了した方も若干名含む。)		
	児童相談	30	人			
合計		194	人			

【平成25年度 くればすの活動について～反省と課題～】

今年度は、昨年度と同様に相談支援関連事業等（満園の出向後の人員配置、相談支援との兼務等）により、サービス提供可能な時間が減少したため、目標とした月平均 400 時間の利用時間を 44 時間程下回るサービス実績となった。昨年度との比較でも 20 時間程下回っている。また学園からのサポートスタッフの確保も難しい状況が続いており、年間のサービス件数・時間が前年度と比較して減少する結果になっている。（件数で 67 件、時間数で 241 時間 35 分の減）サービス提供に伴う大きな事故等なく実施できたことは良かった。今後も利用者の安全を第 1 にサービスの提供にあたりたい。

相談支援の実施状況としては上記（実績集計）の通りである。計画及びモニタリング作成の月平均は約 34.6 件/月となっている。法人利用者が 124 名、全体数では 194 名となっている。さらに計画作成予定の方の数も十名控えている状況である。（平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月）

現状の沖崎、塩満の 2 人体制では計画等の作成に関する事務的な業務に多くの時間を割かれて、個別な対応（利用者の声に耳を傾ける（訪問相談）、関係機関[事業]との連携（担当者会議の実施））が充分なされていない状態である。次年度より、新たに 2 名の相談支援専門員と女性相談員（常勤兼務）を追加していくが、現状の兼務状況のままでは前述の課題を解決することはむずかしい状況である。

次年度も相談支援及び在宅支援サービスの人材育成とサービスの質の向上を求めて安心・安全なサービス提供に努めていきたい。

平成 25 年度 ゆうかり保育園 事業経過報告（案）

【全体所感】

全園児中、手帳所持児童が 2 名であったが、それ以外に発達障害があり、児童発達支援事業を併用している状況である。卒園児 19 名中、特別支援学校へ 1 名、普通学校の特別支援学級へ 1 名、通級 1 名の移行の支援を行っている。障害に起因しない、園児、保護者の移行時における不安解消についても、担任、主任を中心に丁寧な対応を心掛けた。

一年を通して、保護者からのクレーム対応に関して、園長の対応が不十分であったことに端を発し、最終的には、市役所窓口、県社協の苦情相談窓口までに至ってしまったケースが発生した。卒園式直前に、臨時の保護者会を開催する等、説明の機会を設けたが、保育士スタッフのストレスは多大なものであった。苦情、相談、クレームへの対応について、考えさせられる機会となった。今後の対応に活かしたい。

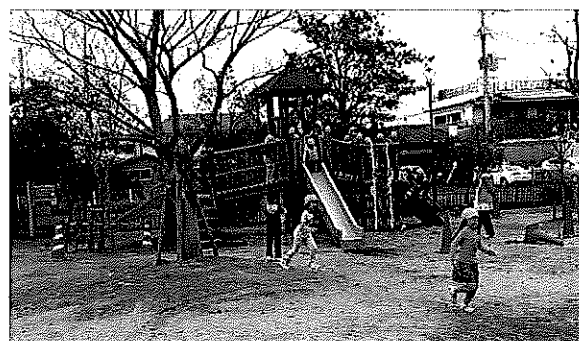
3 回目となる、ふれあいスポーツランドを使用しての親子レクリエーション（運動会）、諸行事もおおむね好評であった。昨年より国際大学のリズム室にて開催している発表会については、3～5 歳児に加えて、0～2 歳児の発表の場を設定したところ、保護者をはじめ祖父母にも大好評であった。

新たな取り組みとして、年長児童による「お泊り保育」を 10 月に実施した。スタッフも当然初めての体験であったが、それぞれの成長が明らかに感じられる取り組みであった。「お泊り保育」実施日（土曜日）に、ゆうかり学園の販売物のバザーも実施した。園児の保護者を中心に、近隣の方々においでいただき、黒豚製品を中心に大好評であった。しかし、土曜日の通常保育の状況での開催であり、運営上、不便が多かったため、次回以降は休園日（日曜日）に開催することとした。

園庭の大型遊具の増設を、数年来検討してきたが、消費税増税前の購入ということで、このたび、設置させていただいた。

【下記写真参照】

左手前部分は、既存の遊具。組み合わせることによって、難易度を上げ、年齢及び発達段階に合わせて、子どもたちのチャレンジする気持ちを引き出したいと考えてた。



【特色ある取り組み】

*スポーツ教室（月1回 3歳以上児）：レノヴァ鹿児島 小久保選手による指導

*食育（月1回のクッキング）

以上児のクラスごとに少人数で行う。

*環境（キャンドル作製など）

*わらべうた・読み聞かせ

子どもたちは回を重ねる毎に集中力がつき、集団の中で子ども同士のコミュニケーション力をつけてきている。

*高齢者デイとの関わり

わらべうたやお誕生会などさまざまな行事を一緒に行い関わりを多く持つことで、お互いの存在を感じあい、お互いにいい表情がたくさん見られている。

*ゆうかり学園利用者さんとの関わり

ゆうかり学園利用者さんに保育園にきていただいて、保育補助をすることで園児や職員との交流を図った。また、保育園児と保護者が学園へ行く機会をつくり、学園との交流をした。

*卒園児交流事業

【監査指摘事項】

8月19日実施 文書指摘1件 口頭指摘2件

園児の状況（平成26年3月31日現在）

0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児		全体	
たんぽぽ		いちご		さくらんぼ		うめ		もも		さくら			
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
4	5	7	5	5	5	9	6	8	10	9	10	42	41

園児の状況（平成26年5月1日現在）

0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児		全体	
たんぽぽ		いちご		さくらんぼ		うめ		もも		さくら			
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
3	5	4	6	10	6	5	6	9	8	8	11	39	42

行事の実施状況

月	日	行事内容	備考
4	1	入園式	
	28	ゆうかり学園 ふれあい運動会参加	さくら組園児及び保護者
5	11	親子遠足（平川動物園）	親子参加
	15	内科検診	ゆあさこどもクリニック
	22	芋苗植え（ゆうかり学園）	さくら組園児

6	1	清掃作業	保護者(父)
	17	みつろう作り	夏至の話
6	22	田植え	さくら組園児及び保護者
7	19	ブルーベリー摘み・芋草取り	ももぐみ園児
	20	ブルーベリー摘み	さくらぐみ園児
8	6	田んぼ草取り	さくら組
	8	そうめん流し(中庭にて)	上村副管理者による協力
	10	ゆうかり学園 夏祭り	参加希望者
9	14	親子レクリエーション(運動会) ふれスポ	親子参加
	17	ゆうかり学園 敬老会	さくら組
10	9	内科検診	ゆあさこどもクリニック
	12	お泊り保育	さくら組園児
	18	秋の遠足	以上児 考古歴史館
	26	稲刈り	さくら組園児及び保護者
	31	収穫祭	
11	3	おはら祭り	さくら組園児及び職員
	7	芋ほり・みかん狩り	さくら組園児
	22	歯科検診	みちよデンタルクリニック
	24	西谷山校区 文化祭	さくら組園児
12	21	発表会	国際大学
1	9	もちつき	
2	22	保護者会	
3	7	お別れ遠足	水族館 3歳以上児 ふれスポ 1・2歳児
	15	卒園式	

※毎月 スポーツ教室、誕生会、わらべうた(外部講師)、読み聞かせ(外部講師)、食育、アニマルセラピー(不定期)、H25年度より鹿児島市の移動図書館(年間20回) 取り組みを実施。

職員の研修状況

期日	研修会	会場	講師	担当
5月25日	全体研修会	自治会館	杉山 亮	水流・山下
6月4日	保育の質を高める研修会Ⅰ	自治会館	肥後 祥治	窪田
6月23日	南ブロック研修	国際大学	佐藤 直明	木佐貫
6月26日～27日	健康と安全研修会	自治会館	脇 貴志	原口
7月6日	保育の質を高める研修会Ⅱ	宝山ホール	大宮 勇雄	石坂
7月11日～12日	第60回九州保育事業研究大会	鹿児島市		黒葛
7月18日～19日	第1回エピソード記述研修会	自治会館	鯨岡 峻	松元
8月1～2日	県外視察研修	宮崎	訪問先園長	松元

8月17日	保育の質を高める研修会Ⅲ	県民交流センター	井桁容子	坂中
8月24日	南ブロック研修	国際大学		窪田・月精
9月5日	相談援助研修会	市民文化ホール	大竹直子	上福元
9月20日	保育の質を高める研修会Ⅳ	市民文化ホール	河崎道夫	神之
10月18日	中堅保育士研修会	自治会館	赤西雅之	岡田
10月26日	南ブロック研修	国際大学		木佐貫・月精
1月18日	園長・主任保育士研修会	市民ホール	天野珠路	水流・右田
1月25日	全体研修	みなみホール	齊藤真人	山下
1月31日～2月2日	わらべうた研修	県民交流センター		右田

研修生受入状況

期間	学生氏名	所属
H26 2月5日～19日	大河原 綾香	鹿児島純心女子短期大学
H26 2月17日～28日	上村 彩乃	鹿児島女子短期大学

サマーボランティア（小・中・高校生 短大・専門学生）

7月22日～8月24日

延べ40名（1日当たり2名、1人につき1日まで） 登録人数44名

平成25年度 事業実績報告（案）

通所介護事業 デイサービスセンター ゆうかり

1、平成25年度事業内容

通所介護事業については、前年度登録利用者5名で引き続きスタートし、8件問合せ（施設見学）があり、2名の新規利用契約があった。

未契約者の原因として、①宿泊(ショートステイ)希望 ②祝祭日も通所希望 ③入所施設への変更等が要望としてあげられた。現在、利用して頂いている利用者の方々にもショートステイの要望があるため、今後の検討課題とする。

また、法人の自主事業として介護保険制度外のご利用は3件あったが営業の際などは、利用を検討したい等のケアマネージャーやご家族の反応が窺えた。

2、レクリエーション活動

レクリエーションは、利用者様の状況、状態に応じ、希望を伺いながら実施した。（外出、制作、園芸、子ども達とのふれ合い。）外出レクリエーションでは、季節に応じ花見や買い物等また、屋外への散歩も多く取り入れた。外出をする事で社会参加を図り、季節を感じて頂く事で気分転換や、機能訓練にも繋がった。また、利用される方々の介護度、好みから参加されない利用者様への考慮すべき場面が多く見られた。

3、保育園とのかかわり

これまでと同様に、普段の生活の中で、子ども達がデイサービス棟で過ごし、希望を伺いながら利用者様が保育園で過ごし子ども達とふれ合う等、お互いに日常的に関わりが持っている。また、園児の中には、気に入った利用者様の膝上で座り、とても穏やかな雰囲気の中で過ごされる場面も見受けられた。

毎月、行われるお誕生会では、要望を伺いながら参加し、子ども達を祝ってくださったり、利用者様のお誕生日や年の祝、敬老の日などはデイサービス棟でのお祝いをする事でとても喜んで頂いた。

その他、昨年同様に卒園式予行練習に参加し、子ども達の元気な歌声にとても喜ばれ、デイサービスから卒園児へプレゼントを手渡す際にも、子ども達の手に触れ励ましの言葉を掛けられていた。

4、研修等

外部研修は、近隣施設の連絡協議会や各研修案内への参加等があったが経験による介護サービスを行い専門性に欠ける支援もあったと思われる。

利用者様への対応、介護技術への向上、レクリエーションの充実に向けた研修等を取り入れる必要がある。

・利用状況

平成25年度の利用状況

開所日数	193日
延べ利用回数	341回
1日平均人数	1.8人

※スタッフの効率的な配置を目指すため、平成23年度4月より月・水・金週3日のサービス提供だったが、新規利用者（田栗様）より火曜日の通所希望があったため平成25年3月より開所している。

・利用者状況

	登録人数	利用回数	備考
4月	5名	25回	
5月	5名	25回	
6月	5名	22回	モリ様⇒自宅療養（6/7～7/19）。
7月	5名	26回	
8月	5名	26回	
9月	5名	27回	モリ様⇒自宅療養（9/27～12/20）。
10月	5名	27回	
11月	6名	30回	11/6 折田 繁 様（94）新規利用開始。
12月	7名	34回	12/13 鎌田 米子 様（80）新規利用開始。
1月	7名	37回	
2月	7名	32回	2/25～3/18 折田 繁 様 入院。
3月	7名	30回	3/20～ 山下 敬 様 入院中。

※4月現在 利用者数 7名 平均介護度：2.7（前年度比：－0.3）

・前年度比

	平成24年度	平成25年度
開所日数	148日	193日
延べ利用回数	289回	341回

そだち支援センター スケッチ 平成25年度 事業実績報告(案)

1. 利用状況

平成25年度の利用状況について、以下の通りである。

開所日数	281 日
延べ利用者数	1,824 名
1 日平均	6.5 名

・毎年必ずインフルエンザ等の感染症で休園になる事が多いが、開所当初から待機児童が入園したことで平成25年度も引き続き、平均は予想を割る事はなかった。

2. 利用者の状況

平成25年度は、24年度の待機児童が新規契約する形となる為、就学に伴い11名卒園することになり、新たに5名入園となった。その為、4月時点で登録児童は計44名であった。

その時点での待機児童数は6名おり、そこからまた乳幼児検診が保健センターで行われる度に見学・体験の希望があり、徐々に待機児童が増える事になった。

秋頃には定員は満員状態となり、平成23年度と同様、見学や体験の問い合わせに対して受け入れを一端中止している。

3. 専門職指導と行事の状況

外部専門職等による専門指導の実施状況と行事については次の通りである。

月	日	指導内容
4	12	音楽療法
	26	音楽療法
	18, 19, 25	個別発達相談
5	2, 14, 22, 24	個別発達相談
	10	音楽療法
	7	就学に向けての助言指導(母親学習会)
	20	ピアカウンセリング(周りの理解について悩む母親の懇談会)
	28	専門指導員指導 (ST)
	31	音楽療法
6	4, 18	個別発達相談
	14	音楽療法
	20	応用行動分析に関する助言指導(母親学習会)
	24	ピアカウンセリング(希望者のみの母親懇談会)
	26	専門指導員指導 (OT)
	28	音楽療法
7	2	ピアカウンセリング(身体の発達がゆっくりな子どもの母親懇談会)
	9, 12, 19, 29	個別発達相談
	12	音楽療法
	15	特別プログラム※
	25	専門指導員指導 (PT)
	26	音楽療法
8	6, 20, 23, 30	個別発達相談
	8	ピアカウンセリング(希望者のみの母親懇談会)
	9	音楽療法
	19	専門指導員指導 (ST)
	22	ピアカウンセリング・療育技術指導(母親学習会)
9	13	音楽療法
	19, 21, 25, 30	個別発達相談
	17	専門指導員指導(臨床発達心理士)
	27	音楽療法

月	日	指導内容
10	2	専門指導員指導(保健師)
	4, 11, 21, 22, 28, 29	個別発達相談
	10	ピアカウンセリング(希望者のみの母親懇談会)
	11	音楽療法
	18	専門指導員指導 (PT)
	25	音楽療法
	26	専門指導員指導 (OT)
11	8	音楽療法
	8, 11, 22, 27	個別発達相談
	9	特別プログラム※
	21	ピアカウンセリング・(AM利用の母親懇談会)
	22	音楽療法
	28	ピアカウンセリング(母親の情報交換会)
12	3	専門指導員指導(臨床発達心理士)
	4, 12, 19	ピアカウンセリング(希望者のみの母親懇談会)
	6	専門指導員指導 (ST)
	13	音楽療法
	23	特別プログラム※
	27	音楽療法
1	10	音楽療法
	14, 15, 24, 27	個別発達相談
	20	ピアカウンセリング・療育技術指導(母親学習会)
	21	専門指導員指導 (OT)
	24	音楽療法
	30	専門指導員指導 (PT)
2	1, 3, 13, 20, 28	個別発達相談
	14	音楽療法
	17	ピアカウンセリング(AM利用の母親懇談会)
	19	専門指導員指導 (臨床発達心理士)
	28	音楽療法
3	10, 11	個別発達相談
	16	特別プログラム※

・専門職指導の際は、今年度は特に職員への療育指導、助言を中心に行った。また、昨年と同じく子ども達一人一人に対する専門的な視点からアドバイスをもらい、療育への反映も検討し、実践した。

・行事については、昨年と同様で普段顔を合わせない保護者同士も交流する機会を作ことを目的に、11月にはミカン狩り・12月にはクリスマス会・3月にはお花見会と親子での行事や懇親会を企画した。

また、昨年の反省を踏まえた事で保護者間や職員と保護者間でも信頼関係が生まれ、とても良い関係性が見えてきた。

その為、企画は上記以外に今年度は新しい企画として7月にも夏のそうめん流し企画を実施した。

保護者の方々の懇談の場になる事や「また来たい」という声を頂く事が多かったが、その後の職員の負担(就学相談会、秋の特別プログラム、個別の支援計画の中間評価など)も多くなり、本来大切な業務が滞るような状態になった。

平成26年度は、そのような状況を避けるべく、保護者の方へ協力をお願いする事や自分たちの今の力量で何が出来るかを先を見通して計画立てていく。

また、保護者の方への学習会も企画し、子ども達に接する際の正しい知識や技術を学ぶ機会も継続して行った。

4. 職員の研修状況

職員の療育技術向上のため、以下の様々な研修を実施、または講演会に参加した。

月	日	研修会名及びその内容
4	12	職業倫理について(内部研修)
	30	児童虐待について①②(内部研修)
5	18	児童虐待について③④⑤(内部研修)
	27, 28	福祉従事者としての心構え(外部研修)
6	1	自閉症スペクトラムの特性理解について 「自閉症教育支援セミナー」水野敦之氏(外部研修)
	5	子どもの発達段階に関する研修(内部研修)
	7	子どもへの分かりやすい環境作りについて「他機関の施設見学」(外部研修)
	10	水野敦之氏講演研修報告(内部研修)
	15	子どもの発達段階に関する研修(内部研修)
	20	「応用行動分析を用いて、子どものコミュニケーション行動を促す為の対応を考える」スーパーバイザー田邊貴仁氏(内部研修)
	26	「療育プログラム内容評価・検討会議」スーパーバイザー田代直子氏(内部研修)
	27	他事業所の施設見学とリハビリテーション視察(外部研修)
7	6	子どもの発達段階に関する研修(内部研修)
	25	「療育プログラム内容評価・検討会議」スーパーバイザー東條夏也氏(内部研修)
8	2	「配慮を必要とする子どもや家庭への支援に向けて」 山喜高秀氏(外部研修)
	24	「こどもの健やかな育ちのために～周りの大人にできること」 中川信子氏(外部研修)
	27	「自閉症を正しく理解すること～自閉症支援で最も大切なこと～」 ゲーリーメジボフ氏(外部研修)
9	17	「療育プログラム内容評価・検討会議」スーパーバイザー田邊貴仁氏(内部研修)
	20	「こどもの不適切な行動の減少を図る為には」田邊貴仁氏(内部研修)
	30	子どもの発達段階に関する研修(内部研修)
10	2	「子どもの感染症に関する基礎知識とその予防について」 鶴窪淳子氏(内部研修)
	18	療育プログラムの内容評価・検討会議スーパーバイザー東條夏也氏(内部研修)
	19	「子ども達の感覚って」東條夏也氏(内部研修)

1 1	1	「障害の理解～発達障害を中心に～」片岡美華氏(外部研修)
	1 4	中川信子氏講演研修報告(内部研修)
	1 6	片岡美華氏講演研修報告(内部研修)
1 2	3	「療育プログラム内容評価・検討会議」スーパーバイザー田邊貴仁氏(内部研修)
	1 5	「救命救急について」谷山分遣隊(外部研修)
	1 7	「障害のある子どもの支援～皆にすること、個別にすること～」 片岡美華氏(外部研修)
1	4	「PECS とは何か？」今本繁氏(外部研修)
	9	片岡美華氏講演研修報告(内部研修)
	1 6	発達障害地域支援専門員養成研修
	2 1	「療育プログラム内容評価・検討会議」スーパーバイザー田代直子氏(内部研修)
	3 0	「療育プログラム内容評価・検討会議」スーパーバイザー東條夏也氏(内部研修)
2	1 9	「療育プログラム内容評価・検討会議」スーパーバイザー田邊貴仁氏(内部研修)

報告者：畠中あや(管理者)